

情報公開で判明した熱研の施設管理実態に関する公開質問状
 —BSL4 施設管理運営者としての適格性を問う—

地域連絡協議会議長 調 漸 様
 地域連絡協議会委員 ご一同 様

2016 年 7 月 24 日
 地域連絡協議会公募委員 木須博行

【趣旨】：昨年、長崎大学生物災害等防止安全管理規則に定める施設管理状況について、長崎大学熱帯医学研究所に係る施設（BSL3 施設）に関する情報公開請求をしました。（下記「情報公開請求資料についての記録」をご参照ください）

その資料を点検・分析[*1]した所、次ページ以下に示すように、安全管理運営に強い疑念を抱かせる実態が見つかりました。

そのことについて次ページ以下に具体的に指摘しますが、もし BSL3 施設でこのような杜撰な実態があるとすれば、これよりもはるかに危険度の高いウイルスを扱う BSL4 施設を管理運営する当事者としての適格性を認めるわけにはいきませんし、そういう組織の説く安全神話は全く信頼できないこととなります。

このような懸念から、BSL4 施設計画について議論している『地域連絡協議会』にお知らせすることにしました。ぜひ管理運営する当事者としての適格性を議論して戴くよう強く要望いたします。

＝情報公開請求資料についての記録＝

【情報開示請求日時】：平成 27 年 3 月 24 日
 【情報開示書類交付日】：平成 27 年 4 月 22 日
 【書類番号】：長大広戦第 11 号
 【開示請求者】：長崎大学教育学部教授 勝俣隆

回答は、郵送（宛先は別紙の通り、回答期限は平成 28 年 7 月 31 日）にて、および第 5 回地域連絡協議会（8 月 3 日）の席上にてお願いします。
 また、本質問状は公開とさせて戴きますので、報道各社にも送付することを申し添えます。

なお、この公開質問は、下記の共同責任において行いました。

- ・長崎大学バイオハザード予防研究会（代表 勝俣隆）
- ・BSL4 施設の坂本設置に反対する地元自治会連絡会（代表 西畑久男）
- ・暮らしと地域を考える長崎市民の会（代表 吉田省三）

※[*1] 点検・分析は、『長崎大学バイオハザード予防研究会』、『BSL4 施設の坂本設置に反対する地元自治会連絡会』、『暮らしと地域を考える長崎市民の会』の共同責任において行った。

※事務局注：勝俣氏に開示した文書には個人名も表示していましたが、安全上の理由により、教員以外の個人名はぼかしています。

1. 設備等点検記録表の分析結果と問題点

1.1 Room238 に関するもの

・オートクレーブ

資料A-1, A-2, A-3はRoom238のオートクレーブに関する記録表である。これら3枚の記録表には以下の問題点が存在している。これらにはいずれも点検がきちんとなされたのかどうかについて、大きな疑惑が存在しており、安全管理責任者の責任は重大である。

- ① 『良』に付けられた○印と備考欄や日付欄の不自然な消し跡は、これら3枚の記録表で全く同じであり、コピーであると断定できる。このことは、いろいろな不正の可能性を示唆しているが、例えば次のようなことが疑われるのである。
 - (1) H24年の記録始めの年に、H25年、H26年の「点検結果」の部分にすでに『良』に○印が付いており、安全点検をする前からすでに安全宣言を下していた可能性。
 - (2) 5年間保管を義務付けられている書類を保管していなかった、あるいはそもそも安全点検を実施していなかった可能性。実際、H25年以外の年の記録はない。これら以外にも推測が可能であるが、いずれにしても安全点検を愚弄するものであり、熱研の安全点検は全く信用できないことを意味する。安全責任者の責任が強く問われるべきである。
- ② 記録に関して①のような種々の疑惑があり、正常な点検記録とは思えないのに、安全責任者の印鑑が押されている。これは安全責任者が真の責任者として機能していないことを意味する。熱帯医学研究所の責任体制がこのようなものであれば、BSL4施設の運営責任を担う当事者としての適格性を認めることはできない。

・冷凍保管庫

- ① 資料A-4を見ると、H24年の検査年月日を修正してある。これは通常ではあり得ない不自然な修正である。なぜなら、年と月、それも夏と冬の違いを超えて間違える可能性はほぼゼロである。それも、2回目の検査期日より後の日付となっている。具体的な説明を求める。
- ② 「見本」のゴム印が捺された用紙に記入しているのは通常ではあり得ない。あるいは①と併せて考えると、情報公開請求した時点で点検記録が存在しなかったために、見本の用紙で間に合わせたという疑いも残る。そうであれば安全管理の杜撰さが強く問われるべきである。

1.2 ベトナム拠点に関するもの

・オートクレーブ

- ① 資料A-5とA-6によれば、オートクレーブ1と2で、どちらもH26/5/19の記録において点検者の名前が修正されている。自分の名前を間違えることはないのに、他人が本人の署名、押印をしたことになる。これは社会的には絶対に許されないことであり、それを許した安全責任者の責任が強く問われるべきである。また修正前の点検者について、当日、ベトナム勤務の実態があったのかどうか説明を求める。
- ② H25年の点検者の名前が修正された一方で、H25年とH26年の日付と○印の筆跡は同一人物のものだと判断できる。さらに、名前の修正にもかかわらず印影は1個のみであり、修正後の点

検者の印影は無いことになる。これらのことは、後日、他人が手を加えた可能性しか考えられず、安全点検がきちんと行われていなかった疑いが強い。真実の説明を求める。

・冷凍保管庫

- ① 資料A-7によれば、冷凍保管庫についても、上記資料A-5、A-6のオートクレーブの疑惑と全く同じ疑惑が存在する。これにも同様の説明を求める。
- ② H25年における温度測定記録、『-87℃』はパソコン印字であり、事前に打ち込まれていたことになる。点検時に記録用紙を作成したとすれば、日付は手書き、名前はゴム印というのが解せない。日付の『25』だけ他の『田中香苗』氏による筆跡とは違うように見えることと関係が無いか、事情を説明願いたい。

1.3 ケニア拠点に関するもの

・オートクレーブ

- ① 資料A-8によれば、安全責任者の名前を間違えて削除している。これは普通では考えられず、修正前の責任者が、当日ケニアでの勤務実態があったのだろうかという疑念が生じる。これもまた、少なくとも安全管理の実態がいい加減であるといえるので、詳細な説明を求める。
- ② 名前の削除があったにもかかわらず、印影は3カ所あるが、どういう意味なのか理解困難である。削除したということは、安全責任者は上の『森田公一』氏であっただろう。しかし、いずれにしても、少なくとも一つは『一瀬』印でなければならない。しかし、後で削除されるような安全責任者でもない印が捺されていることは実にいい加減であると言える。納得いく説明を求める。
- ③ 安全弁の装備が無いまま3年間の点検を済ませているが、この間使用実績はなかったのか？安全弁が無くては使用できるはずはないが、研究に差し支えは無いのか、具体的に説明を求める。

・冷凍保管庫

- ① 資料A-9によれば、上記資料A-8の①と②の疑念と全く同じ疑念が存在する。こちらも説明を求める。
- ② 上記オートクレーブ232号室と点検日は全く同じであるにもかかわらず、H27年の点検者の署名「モハメド シャー」氏の筆跡だけ、他の年の筆跡と異なっているように見える。本人のものに間違いはないのか？説明を求める。

1.4 熱帯医学研究所ウイルス学分野に関するもの

・オートクレーブ

- ① 資料A-10によれば、熱帯医学研究所ウイルス学分野の施設における点検は平成25年だけしか行われていない。これは明らかに毎年1回以上定期的に点検するという規則に違反している。それともその間、実験室の使用実績がなかったため、定期点検は行わなくて良かったのか？また、使用実績が無いとしたら、BSL3施設を利用する研究は行われなかったのか？すると、施設の重要度はそれほど大きくないことにもなるが、実験記録などによる具体的な説明を求める。

・冷凍保管庫

- ① 資料A-13、A-14によれば、上記資料A-10と同じく、点検は平成25年だけしか行われていない。こちらにも全く同様の説明を求める。

1.5 施設設備異常記録に関するもの

資料 A-15 によれば、以下の問題が指摘できる。

- ① 施設設備異常記録が、H25 年分のみしか存在しない。これは他の年において異常記録がなかったという事なのか？1, 4で指摘した、安全点検記録が H25 年の分しかないことと併せると、他の年は安全点検を全く行っていないと推測される。もしそうであれば安全管理上、由々しき事態である。ととも BSL4 施設の運営管理を認めるわけにはいかないが、具体的な説明を求める。
- ② しかも、H25 年の記録だけで相当の件数が異常として記録されている。これはこの年だけの異常現象なのか？しかし、この年だけ多くて他の年はゼロという事は、確率統計的に非常に起こりにくい現象と思われる、①の疑いがますます強くなる。明快な説明を求める。
- ③ H25 年だけで、冷凍庫の温度が規定値まで下がらなかったり、ウイルス実験室の陰圧が規定値まで下がらなかったり、機械のトラブルが結構起きている。このことは、『BSL4 施設は安全』という長崎大学の説明が非常に心許ないものであることを示している。
予期せぬ機械のトラブルも安全神話が成り立たない一つの大きな原因であるが、これについて、どのように考えているのか、明快な回答を求める。

2. リーク測定に関する疑問点

・効率の計算について

- ① 資料 B-1 の表中にある『効率』とは、HEPA フィルターを通して流出する粒子の『捕集効率』の事と思われる。すると、計算数値がどうしても合わないので、具体的な説明を求める。
例えば、フィルターを通す前の粒子数=967496に対し、フィルター通過後の測定値は 25 というデータがある。記録では効率として99.9999%以上となっているが、捕集効率としては99.9974%にしかならないのではないかと？ 他の2回の測定値も数値が合わない。

・測定方法について

- ① 3か所のすべての測定において、フィルターを通す前の粒子数が967496個で同一数である。これは非常に不自然ではないのか？どのような測定なのか、説明を求める。測定を業者に丸投げしていることに関係はないのか？

3. まとめ

以上、情報公開請求資料に基づき、長崎大学熱帯医学研究所に係る施設設備の安全点検と運営実態を分析した。その結果は、この程度のわずかな公開資料からさえ、きちんとした安全点検が行われているのか非常に疑わしい実態が明らかになった。

このような運営実態が現実のものとなれば、管理責任者は社会的な責任を問われなければならない。そればかりではなく、そういう組織には『安全文化（安全を至上価値とする体質）』がないということであり、はるかに危険な BSL4 施設の運営責任を担うことが許されるはずはない。そのような疑念を晴らすためにも、誠意ある回答と共に、地域連絡協議会での真摯な議論をお願いする。

Room 238
(L31-4)

A-1

設備等点検記録表(オートクレーブ)

森田公一 森田 類彦 以上 森田 有吉 紅也

施設名	安全責任者		点検事項	平成24年12月14日		平成25年1月9日		平成25年2月20日	
	オートクレーブ	点検者		点検結果	備考	点検結果	備考	点検結果	備考
1	缶体	腐食・亀裂	良好	否	良好	否	良好	否	
	缶体フタ	腐食・亀裂	良好	否	良好	否	良好	否	
2	アーム	腐食・亀裂	良好	否	良好	否	良好	否	
	アームガイド	腐食・亀裂	良好	否	良好	否	良好	否	
3	ボルト・ねじ	ゆるみ(アーム、アームガイド等)	良好	否	良好	否	良好	否	
4	缶体フタパッキン	亀裂・ひび割れ	良好	否	良好	否	良好	否	
5	安全弁	腐食・亀裂	良好	否	良好	否	良好	否	
	安全弁周辺	蒸気が漏れた跡	良好	否	良好	否	良好	否	
6	温度	上昇確認(温度確認テープ)	良好	否	良好	否	良好	否	
7	圧力	上昇確認	良好	否	良好	否	良好	否	
《備考》									

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

A-2

設備等点検記録表(オートクレーブ)

Room 238
(L31-5)

森田公一 有吉紅也 森田公一 有吉紅也 森田公一 有吉紅也 以上 森田公一 有吉紅也

観摩 平成24年12月14日

平成25年8月8日

平成25年8月20日

施設名	安全責任者		点検事項	平成24年12月14日		平成25年8月8日		平成25年8月20日	
	オートクレーブ	点検者		点検結果	備考	点検結果	備考	点検結果	備考
1	缶体	腐食・亀裂	良	否	良	否	良	否	
2	缶体フタ	腐食・亀裂	良	否	良	否	良	否	
	アーム	腐食・亀裂	良	否	良	否	良	否	
3	アームガイド	腐食・亀裂	良	否	良	否	良	否	
	ボルト・ねじ	ゆるみ(アーム、アームガイド等)	良	否	良	否	良	否	
4	缶体フタパッキン	亀裂・ひび割れ	良	否	良	否	良	否	
	安全弁	腐食・亀裂	良	否	良	否	良	否	
5	安全弁周辺	蒸気が漏れた跡	良	否	良	否	良	否	
	温度	上昇確認(温度確認テープ)	良	否	良	否	良	否	
7	圧力	上昇確認	良	否	良	否	良	否	
	《備考》								

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

A-3

設備等点検記録表(オートクレーブ)

Room 238
L 154-44

森田公一 有吉紅也 森田公一 有吉紅也 以上安価保存期間

施設名	オートクレーブ	安全責任者	有吉紅也	有吉紅也	有吉紅也
設備名	点検事項	点検者	平成24年12月14日	平成25年12月20日	平成26年12月18日
点検項目	点検結果	備考	点検結果	点検結果	点検結果
1 缶体	腐食・亀裂		良・否	良・否	良・否
缶体フタ	腐食・亀裂		良・否	良・否	良・否
アーム	腐食・亀裂		良・否	良・否	良・否
アームガイド	腐食・亀裂		良・否	良・否	良・否
3 ボルト・ねじ	ゆるみ(アーム、アームガイド等)		良・否	良・否	良・否
4 缶体フタパッキン	亀裂・ひび割れ		良・否	良・否	良・否
安全弁	腐食・亀裂		良・否	良・否	良・否
安全弁周辺	蒸気が漏れた跡		良・否	良・否	良・否
6 温度	上昇確認(温度確認テーパー)		良・否	良・否	良・否
7 圧力	上昇確認		良・否	良・否	良・否
《備考》					

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

Room 23号(3878)病棟

A-4

設備等点検記録表(冷凍保管庫)

森田公一

森田 類彦

以上

保存期間

施設名	安全責任者		点検事項	平成25年7月8日		平成25年7月7日		平成25年7月20日	
	冷凍保管庫	点検者		点検結果	備考	点検結果	備考	点検結果	備考
1	フィルター	ほこり・汚れ	良・否		良・否		良・否		
2	コンデンサー	ほこり・汚れ	良・否		良・否		良・否		
3	ドアパッキン	傷み・亀裂	良・否		良・否		良・否		
4	霜	庫内・パッキン周辺	良・否		良・否		良・否		
5	温度	表示	良・否	-29℃	良・否	-30℃	良・否	-30℃	
6	警報装置	定期通報	良・否		良・否		良・否		
7	鍵	保管状況	良・否		良・否		良・否		
《備考》									

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

設備等点検記録表(オートクレーブ)

森田公一 安田二瀬 以上 保存期間:5年

施設名	ベトナム拠点	安全責任者	山城 哲		山城 哲		平成 年 月 日	備考	印
			点検結果	備考	点検結果	備考			
設備名	オートクレーブ1	点検者	平成 25 年 5 月 2 日		平成 26 年 5 月 19 日		平成 年 月 日		印
点検項目	点検事項		点検結果	備考	点検結果	備考	点検結果	備考	
1	缶体	腐食・亀裂	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
	缶体フタ	腐食・亀裂	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
2	アーム	腐食・亀裂	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
	アームガイド	腐食・亀裂	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
3	ボルト・ねじ	ゆるみ(アーム、アームガイド等)	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
4	缶体フタパッキン	亀裂・ひび割れ	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
5	安全弁	腐食・亀裂	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
	安全弁周辺	蒸気が漏れた跡	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
6	温度	上昇確認(温度確認テープ)	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
7	圧力	上昇確認	◎良・否		◎良・否		◎良・否		
《備考》									
アドバンテック									

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

設備等点検記録表(オートクレーブ)

森田公一 安田 頻摩 以上 保存期間:5年

施設名	ベトナム拠点		安全責任者		平成25年5月21日	備考	平成26年5月19日	備考	平成 年 月 日	備考
	オートクレーブ2	点検者	点検事項	点検結果						
1	缶体	腐食・亀裂	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
2	缶体フタ	腐食・亀裂	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
3	アーム	腐食・亀裂	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
4	アームガイド	腐食・亀裂	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
5	ボルト・ねじ	ゆるみ(アーム、アームガイド等)	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
6	缶体フタパッキン	亀裂・ひび割れ	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
7	安全弁	腐食・亀裂	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
8	安全弁周辺	蒸気が漏れた跡	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
9	温度	上昇確認(温度確認テープ)	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
10	圧力	上昇確認	①良	否	①良	否	①良	否	良	否
《備考》										
M0606000000000002										

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

A-7

設備等点検記録表(冷凍保管庫)

森田公一 窪田二朗 一回以上 保存期間:5年

施設名	ベトナム拠点		安全責任者		印
	点検項目	点検事項	点検結果	備考	
設備名	冷凍保管庫	点検者	山城哲	山城哲	印
点検項目			平成25年5月24日	平成26年5月19日	平成 年 月 日
1	フィルター	ほこり・汚れ	◎ 否	◎ 否	点検結果
2	コンデンサー	ほこり・汚れ	◎ 否	◎ 否	◎ 否
3	ドアパッキン	傷み・亀裂	◎ 否	◎ 否	◎ 否
4	霜	庫内・パッキン周辺	◎ 否	◎ 否	◎ 否
5	温度	表示	◎ 否	-87 °C	◎ 否
6	警報装置	定期通報	◎ 否		◎ 否
7	鍵	保管状況	◎ 否		◎ 否
《備考》					
熱研54					

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

設備等点検記録表(オートクレーブ)

Autoclave

森田公一

232号室

頻度

1回以上

保存期間・5年

施設名	熱処理設備		安全責任者	
	オートクレーブ	点検者	安全責任者	点検者
設備名	オートクレーブ			
点検項目	点検事項			
1	缶体	腐食・亀裂	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否
2	缶体フタ	腐食・亀裂	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否
	アーム	腐食・亀裂	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否
	アームガイド	腐食・亀裂	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否
3	ボルト・ねじ	ゆるみ(アーム、アームガイド等)	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否
4	缶体フタパッキン	亀裂・ひび割れ	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否
5	安全弁	腐食・亀裂	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否
	安全弁周辺	蒸気が漏れた跡	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否
6	温度	上昇確認(温度確認テープ)	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否
7	圧力	上昇確認	平成25年1月31日 点検結果 (良)・否	平成26年1月15日 点検結果 (良)・否

《備考》

TOMY MSS-325

TOMY MSS-325

TOMY MSS-325

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

A-9

設備等点検記録表(冷凍保管庫)

235号室

頻度:年1回以上 保存期間:5年

Freezer

施設名	安全責任者		点検事項	平成25年 1月31日		平成26年 1月15日		平成27年 1月30日	
	熱研ケ-ア拠点	点検者		点検結果	備考	点検結果	備考	点検結果	備考
設備名	冷凍保管庫								
点検項目									
1	フィルター		ほこり・汚れ	良	否	良	否	良	否
2	コンデンサー		ほこり・汚れ	良	否	良	否	良	否
3	ドアパッキン		傷み・亀裂	良	否	良	否	良	否
4	霜		庫内・パッキン周辺	良	否	良	否	良	否
5	温度		表示	良	否	良	-80 °C	良	-80 °C
6	警報装置		定期通報	良	否	良		良	
7	鍵		保管状況	良	否	良		良	
《備考》									

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

A-14

設備等点検記録表(冷凍保管庫)

頻度:年1回以上 保存期間:5年

施設名	熱帯医学研究所 ウイルス学分野		森田 公一		森田 公一		森田 公一	
	安全責任者	点検者	337 Ch 4	337 Ch 5	337 Ch 7	337 Ch 9	点検結果	備考
設備名	冷凍保管庫Ch		早坂大輔		早坂大輔		早坂大輔	
点検項目	点検事項		平成25年4月9日	平成25年4月9日	平成25年4月9日	平成25年4月9日	平成25年4月9日	平成25年4月9日
1	フィルター	ほこり・汚れ	点検結果	点検結果	点検結果	点検結果	点検結果	備考
2	コンデンサー	ほこり・汚れ	良・否	良・否	良・否	良・否	良・否	
3	ドアパッキン	傷み・亀裂	良・否	良・否	良・否	良・否	良・否	
4	霜	庫内・パッキン周辺	良・否	良・否	良・否	良・否	良・否	
5	温度	表示	良・否	良・否	良・否	良・否	良・否	-79℃
6	警報装置	定期通報	良・否	良・否	良・否	良・否	良・否	-79℃
7	鍵	保管状況	良・否	良・否	良・否	良・否	良・否	
《備考》								

※特定病原体等を取り扱う実験室等については、1年に1回以上定期的に点検し、記録を5年間保存すること。

施設設備異常記録2013

年月日	時刻	部屋	機器	確認者	状態	対応
2013/8/21	9:00	337	ディーブフリーザー Ch3	早坂 大輔	温度-55°Cに上昇	業者(テクノスズタ)に連絡。当日対(メーカー)修理必要。JEVIはCh7へ。その他は共同実験室のディーブフリーザーへ一時保管。
2013/9/19	20:00	337	ディーブフリーザー Ch3	早坂 大輔	修理したが温度下がらず。	修理完了したが温度下がらず。
2013/9/20	9:00	337	ディーブフリーザー Ch3	早坂 大輔	温度-80°Cまで下がらず。	業者(テクノスズタ)に連絡。再度修理必要とのこと。
2013/10/22	19:00	337	ディーブフリーザー Ch3	早坂 大輔		修理完了。
2013/10/23	9:00	337	ディーブフリーザー Ch3	早坂 大輔	温度-80°Cまで下がる。	内容を戻す。
2013/11/5	11:30	339	ウイルス実験室 空調機	早坂 大輔	故障ランプ点灯	業者(日立)に連絡。空調機(エアコン)の故障のため、温度・湿度調節に支障。差圧は問題ないため使用は可能とのこと。
2013/11/6	17:15	339	ウイルス実験室 空調機	早坂 大輔	故障ランプ消灯	修理完了。
2013/11/30	11:30	339	ウイルス実験室 空調機	早坂 大輔	故障ランプ点灯	業者(日立)に連絡。空調機(エアコン)の故障のため、温度・湿度調節に支障。差圧は問題ないため使用は可能とのこと。部品の取り寄せに時間がかかるため、修理は1~2ヶ月後の予定。
2014/1/9	11:30	339	ウイルス実験室 空調機	早坂 大輔	故障ランプ消灯	修理完了。
2014/1/29	16:10	339	オートクレーブ 339-2	早坂 大輔	フタ開かず	2月予定の定期点検後に修理依頼。
2014/1/31	8:45	337	ディーブフリーザー Ch1	早坂 大輔	温度-60°Cに上昇	業者(テクノスズタ)に連絡。当日対(メーカー)修理必要。特定病原体はCh7へ。その他は共同実験室のディーブフリーザーへ一時保管。
2014/2/26	16:10	339	オートクレーブ 339-2	早坂 大輔		定期点検に伴い339室をホルマリン燻蒸したため、機器を339外に出す。業者(テクノスズタ)にみてもらい、修理必要とのこと。
2014/3/5	10:30	339	ウイルス実験室差 圧	早坂 大輔	定期点検終了後、陰圧が高い(-50)。	業者(日立)に連絡。後日対応。
2014/3/7	12:25	339	ウイルス実験室差 オートクレーブ 339-2	早坂 大輔	通常(-40)に戻る。	リセットで復帰。
2014/3/13	17:00	339	オートクレーブ 339-2	早坂 大輔		修理完了。339へ移動。
2014/3/14	14:45	339	ウイルス実験室 空調機	早坂 大輔	故障ランプ点灯	業者(日立)に連絡。後日対応。差圧に問題なければ使用は可能とのこと。

B-1

リーク測定結果表

測定日	部屋名	測定フィルタ	吸引量	対象粒径	1次側測定値	2次側測定値	効率	判定
2月26日	BSL3 熱帯細菌実験室	①	1cf	0.3 μ m	967496	25	99.9999%以上	可
	BSL3 熱帯ウイルス実験室	①	1cf	0.3 μ m	967496	51	99.9999%以上	可
		②	1cf	0.3 μ m	967496	44	99.9999%以上	可